

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 16 章 5-12 節>

1 パウロのこの時の状況は使徒言行録 19 章に記されている。

パウロはここで、今エフェソにいる自分の状況と今後について述べています。それは使徒言行録 19 章に記されています。パウロがこの手紙を書いた後、エフェソのアルテミス神殿で生計を立てていた人々がパウロの宣教に怒り、彼を捕えようとして大騒動になります。まさに、「わたしの働きのために大きな門が開かれているだけでなく、反対者もたくさんいるからです」(9)、とパウロが手紙に書いた通りになって行ったのです。

2 問題発生は色々取り組んでいるから起こる。悪いことではない。

異教の神信仰でにぎわっていた町エフェソ。そこで伝道するわけですから、こういうことが起こっても不思議ではありません。問題にぶつかるということは、必ずしも悪いことではありません。一生懸命取り組んでいるから問題にぶつかるのであって、何もしなければ問題にもぶつかりません。問題が起こっても、主が助けて下さると信じていたのです。パウロは、「わたしの働きのために大きな門が開かれている」、つまり、偶像の神を空しく信じている人々が多いから、聖書の神様について宣べ伝えれば受け入れる人も多いはずだと考え、それは正しかったのです。

3 若い信仰の指導者テモテから教えられること。

テモテは若いけれども、パウロが最も信頼していた弟子でした。「あなたは、年が若いということで、だれからも軽んじられてはなりません、むしろ、言葉、行動、愛、信仰、純潔の点で、信じる人々の模範となりなさい」(テモテ I 4:12)。今日の箇所でもパウロは、「誰も彼をないがしろにはならない」(11)とコリントの教会の人たちに注意しています。今の私たちも気をつけなければならない問題だということです。来年の 1 月には総会があります。長老や執事を選出します。選ぶ判断基準は、「言葉、行動、愛、信仰、純潔の点で、信じる人々の模範となっているか」です。選ばれた人もテモテが「…模範となりなさい」と言われていることを思い、真剣に取り組んでいけば神様が相応しく変えて下さると信じるのが大事です。